

五所川原市合併10周年記念

五所川原市の地名



五所川原市

《表紙写真》

立佞武多について（明治40年頃の武者人形）

明治中期から大正初期にかけて、高さ12間（約21m）の大ネプタ（立佞武多）が数百人の若者によって担がれて町内を練り歩いたと言われ、その勇壮な姿は五所川原から12km離れている隣町からでも見えたと言われています。

その後、電気（電線）の普及と共に低い組ネプタへと移っていましたが、平成5年、台車の設計図が発見され、復興の機運が高まり、平成8年に有志の手によって約1世紀ぶりに復元され、現在に至っています。

五所川原市合併10周年記念

五所川原市の地名



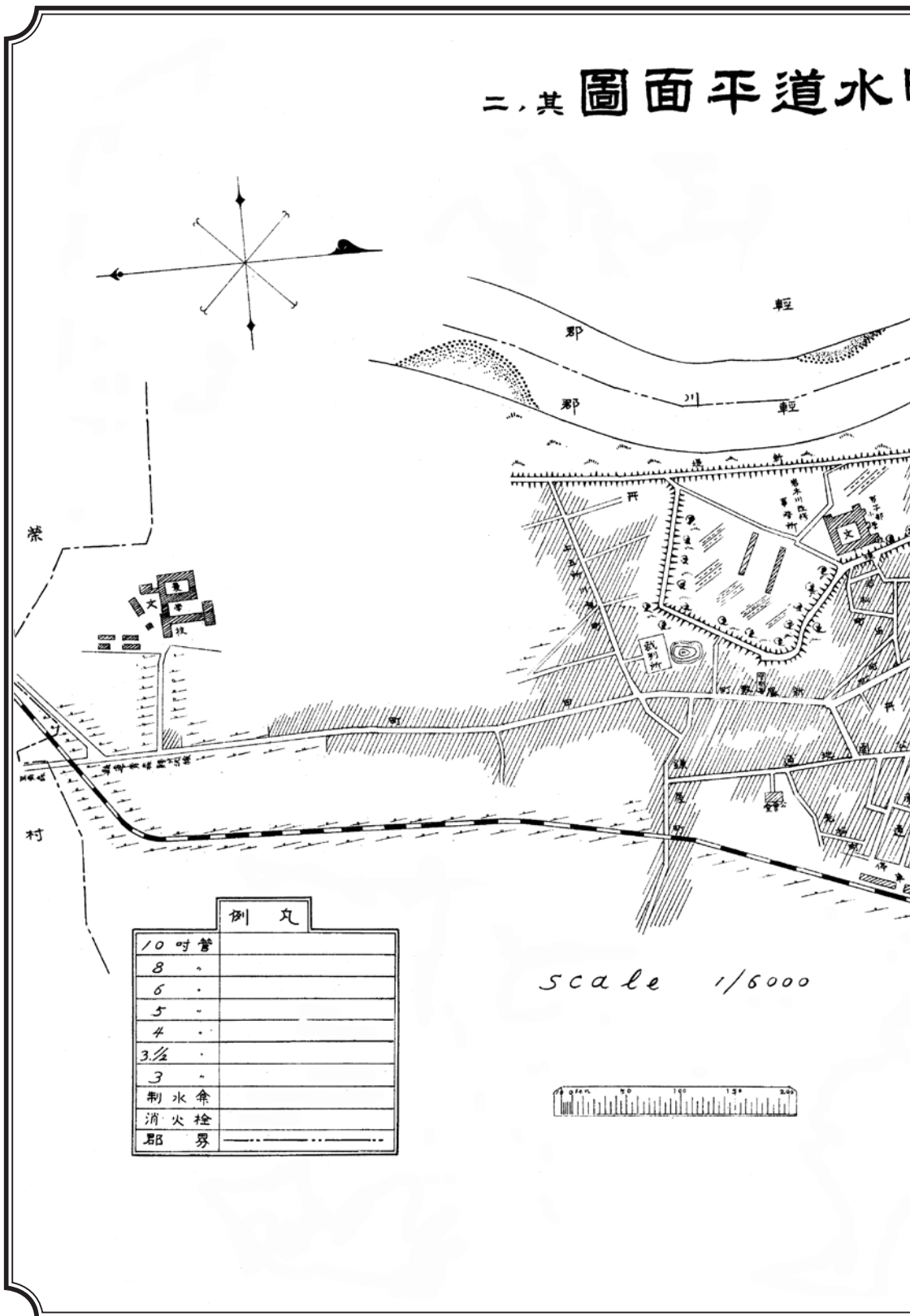


口絵4 相内村図式 (市浦総合支所蔵)・明治6年 (1873)

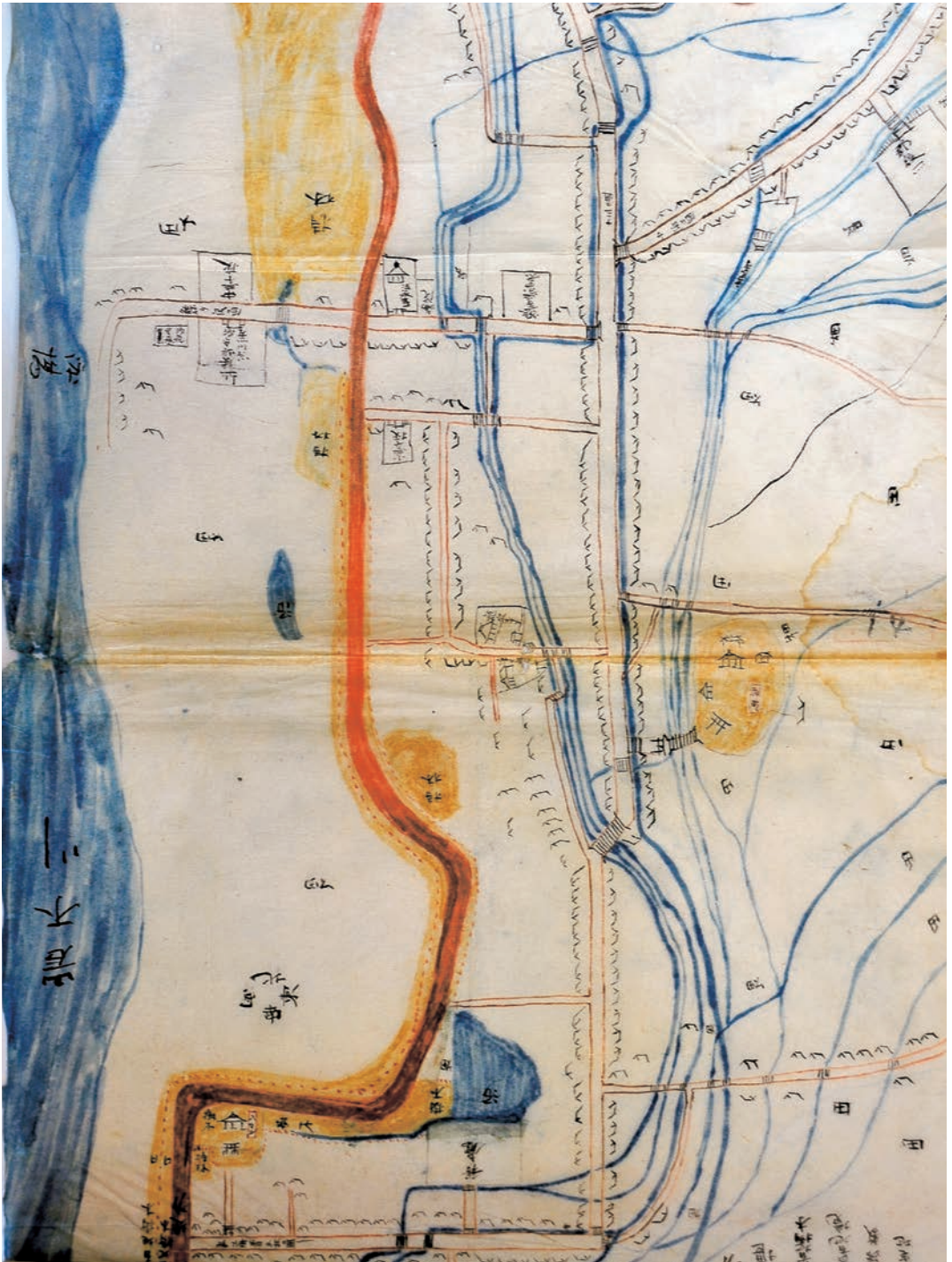
五所川原町



二、其圖面平道水



口絵6 五所川原町水道平面図（『五所川原町水道誌』所載を一部改変）・昭和4年（1929）



口絵7 五所川原絵図（五所川原市立図書館蔵）・明治17年（1884）

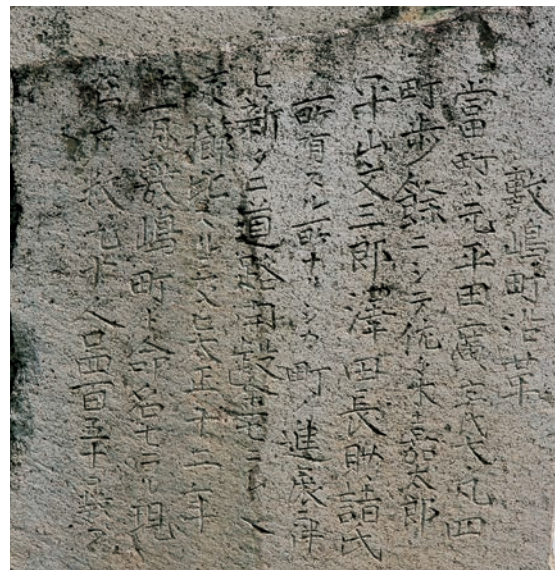


口絵9 五所川原地名発祥之源地碑
元町八幡宮境内 昭和52年（1977）



口絵8 敷嶋町皇紀二千六百年記念百萬遍碑
敷嶋町J R踏切の側 昭和15年（1940）

敷嶋町沿革
 當町ハ元平田廣袤大凡四町歩餘ニシテ佐々木嘉太郎平山文三郎澤田長助諸氏ノ所有スル所ナリシカ町ノ進展ニ伴ヒ新タ二道路開鑿セラレ人家櫛比スルニ及ヒ大正十二年十一月敷嶋町ト命名セラル現
 在戸数九十人口四百五十ヲ数フ



（口絵8の裏面には敷嶋町の沿革が刻まれている）

発行にあたって

五所川原市長 平山 誠 敏

私たちの五所川原市は、平成十七年三月二十八日に旧五所川原市、旧金木町、旧市浦村の一市一町一村が合併し、新五所川原市として誕生いたしました。

本年、十周年の節目の年を迎えるにあたり、市合併十周年記念事業の一つとして『五所川原市の地名』を刊行しました。地名は、自然の特徴や自分たちの生活との関わりをとらえた、仲間同士の符丁のようなものであったと思われる、その土地に生死した人々の歴史、生活、精神史の貴重な索引であり、歴史の証明であるとともに、貴重な文化遺産でもあります。各地名の由来を問われてもはっきりと答えられないことが間々ありますが、本書は、市の行政地名はもとより、通称地名、今はない地名の由来等を歴史を紐解き調査・追及したものであり、後世に残すメッセージとして長く役に立つものを目指しました。

私たちのふるさと「五所川原」の地名の由来や歴史について関心を高めるとともに、「温故知新」の精神で父祖の残した歴史と文化を忘れずに後世に伝えるため活用していただきたくと存じております。

本書の刊行にあたり、貴重な情報をご提供いただきました多くの皆様に心から御礼申し上げますとともに、刊行委員、執筆者をはじめご協力を賜りました関係者各位に深く感謝いたします。

なお、新たな情報や資料がございましたら引き続きご提供いただき、将来の改訂のために役立てたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

「五所川原市の地名」 目次

口 絵

1	飯詰組広田組絵図（弘前市立弘前図書館蔵）・一八世紀前半	22
2	金木組絵図（弘前市立弘前図書館蔵）・一八世紀前半	22
3—1	津軽新田之図（弘前市立弘前図書館蔵）・一九世紀	22
3—2	津軽新田之図・五所川原地区（部分拡大）	
3—3	津軽新田之図・金木地区（部分拡大）	
4	相内村図式（市浦総合支所蔵）・明治六年	
5	金木案内俯瞰絵図（個人蔵）・大正七年	
6	五所川原町水道平面図・昭和四年（『五所川原町水道誌』所載を一部改変）	
7	五所川原絵図（五所川原市立図書館蔵）・明治一七年	
8	敷嶋町皇紀二千六百年記念百萬遍碑・昭和一五年	
9	五所川原地名発祥之源地図・昭和五二年	
ごあいさつ	五所川原市長 平山誠敏	

第一章 五所川原市のなりたちと地名

第一節	五所川原市のなりたち	22
一	縄文時代の五所川原	22
二	古代の五所川原	22

第二章 旧五所川原市の地名

三	中世の五所川原	24
四	津軽郡中名字と地名	24
五	新田開発と地名	25
六	貞享検地と地名	28
七	三新田の開発	31
八	飢饉と荒廃田復興	33
九	地方行政制度の整備	34
十	地租改正と地名	35
十一	市制町村制度と地名	35
十二	昭和の大合併と地名	37
十三	平成の大合併と地名	37
第二節	自然地名	38
第三節	人文地名	40
第一節	五所川原地区の地名	43
五所川原		43
中 央		70
第二節	小曲地区の地名	71
小 曲		71
第三節	梅沢地区の地名	75
梅 田		76
中 泉		77

浅井	豊成	福山	戸沢	松野木	野里	神山	第六節 長橋地区の地名	前田野目	原子	高野	持子沢	俵元	羽野木沢	第五節 七和地区の地名	みどり町	七ツ館	稲実	湊	姥菴	広田	第四節 栄地区の地名
.....
118	117	117	114	112	111	108	107	103	100	99	97	95	93	90	89	88	86	83	82	80	79

若葉	長橋	新宮	田川	種井	桜田	沖飯詰	川山	第九節 中川地区の地名	下岩崎	飯詰	第八節 飯詰地区の地名	松島町	太刀打	米田	一野坪	漆川	石岡	唐笠柳	水野尾	金山	吹畑	第七節 松島地区の地名
.....
154	153	152	149	148	147	145	144	143	141	134	132	131	130	128	127	126	125	124	123	122	121	120

第十節 三好地区の地名 ……………

鶴ヶ岡 ……………

高瀬 ……………

藻川 ……………

第十一節 毘沙門・長富地区の地名 ……………

毘沙門 ……………

長富 ……………

◆コラム「菟(やち)」 ……………

第三章 旧金木町の地名

第一節 金木地区の地名 ……………

金木 ……………

川倉 ……………

藤枝 ……………

蒔田 ……………

神原 ……………

第二節 嘉瀬地区の地名 ……………

嘉瀬 ……………

中柏木 ……………

第三節 喜良市地区の地名 ……………

喜良市 ……………

◆コラム「派立(はだち)」 ……………

199 194 194 192 188 187 186 184 183 180 173 173 171 168 166 165 161 159 158 156

第四章 旧市浦村の地名

第一節 相内地区の地名 ……………

相内 ……………

太田 ……………

第二節 脇元地区の地名 ……………

脇元 ……………

磯松 ……………

第三節 十三地区の地名 ……………

十三 ……………

「五所川原市の地名」刊行委員・執筆分担 ……………

参考文献

…………… 237

資料編

一 索引 …………… 274 (1)

二 大字・字名一覧 …………… 269 (6)

三 字界図 …………… 257 (18)

四 五所川原市町村変遷 …………… 253 (22)

五 地区別人口 …………… 249 (26)

凡例

一、本書は、平成の市町村合併後の五所川原市の地名について大字を基準に取り上げ述べたものです。

(一) 江戸時代の遣^{けん}、組^{ぐみ}、明治・昭和の市町村合併によってできた歴史的行政地名についても取り上げました。

(例) 下^{しも}ノ切遣^{きりげん} 広田組 五所川原町 市浦村

(二) 明治三二年(一八八九)の市制町村制によってできた五所川原村は、一村で構成しているので大字がなく(大字が省略され)、五所川原村全体をひとつの大字とみなして記述しました。

(三) 昭和の市町村合併後、区画整理、住居表示などによって、若葉、松島町、みどり町、中央の四つの新しい町ができましたが、こうした町は大字とみなして記述しました。

(四) 平成の市町村合併後、旧金木町、旧市浦村は大字、小字を表記しないことになりました。本書では合併前の旧金木町、旧市浦村の大字を基準に記述しています。

二、取り上げた大字地名では、地名の由来、歴史や地理、自然地名(山、川、湖沼など)、人文地名(街道、溜池、渡し、神社、寺院、城館など)のほか字名、通称名についても触れています。

三、表記は、常用漢字と現代かな遣い、「〜です」「〜ます」の敬体を基本にしています。十分に周知されていないと思われる人名、地名などの固有名詞、言い換えが難しい歴史用語や難解な漢字には、ルビ(ふりがな)を付けました。

四、年号は和暦を基本とし、西暦を()内に記しました。表記の仕方は、例えば昭和六〇年(一九八五)とし、十は使わず一〇年間、一五年間と表記しました。文中で年号が変わったときは、()内に西暦年を付記し、同じ年号が続く場合は、その西暦年を略しました。

五、計量単位はメートル法を用い、単位記号としてm、ha、t、%を使用しました。数量、時間、年月日などを表す数字は漢数字とし、四けた以上の場合に万、億の単位を入れました。ただし、近世文書に出てくる村の規模等を表す石^{いし}、町の単位はそのまま使用した場合があります。

六. 文中および引用文献・参考文献で、活字になった書籍には『』、論文名や活字になっていない史・資料は「」内に記しました。

七. 個人の敬称、尊称は原則として省略しました。

八. 文中で頻出する史料については、次のように略称を用いました。

弘前市立弘前図書館	正保二年（一六四五）	「津軽知行高之帳」	↓	正保二年（一六四五）の「郷帳」
弘前市立弘前図書館	寛文四年（一六六四）	「陸奥国津軽郡高辻村々牒」	↓	寛文四年（一六六四）の「郷帳」
弘前市立弘前図書館	貞享元年（一六八四）	「津軽郡郷村帳」	↓	貞享元年（一六八四）の「郷帳」
弘前市立弘前図書館	天保五年（一八三四）	「陸奥国津軽郡一円伊達郡之内郷村高帳」	↓	天保五年（一八三四）の「郷帳」
弘前市立弘前図書館	明治二年（一八六九）	「陸奥国之内管轄郷村高辻帳」	↓	明治二年（一八六九）の「郷帳」
弘前市立弘前図書館	貞享四年（一六八七）	「御検地水帳」	↓	貞享四年（一六八七）の「検地水帳」
弘前市立弘前図書館	元文元・二年（一七三六・三七）	「御検地水帳」	↓	元文元・二年（一七三六・三七）の「検地水帳」
最勝院	安政二年（一八五五）	「神社微細社司由緒調書上帳」	↓	安政二年（一八五五）の「神社微細帳」